

令和4年度 第3回 第8期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日 時】	令和4年9月26日（月）	午後3時～5時
【場 所】	クリーンセンター2階	見学者ホール
【出席委員】	山谷修作（委員長）、稲垣貴之、加藤慎次郎、志賀和男、 （敬称略）中村充、長山楓、三原美菜子、村井寿夫、茂木勉	
【事務局】	ごみ総合対策課長 ほか	
【欠 席】	田口誠（副委員長）、朝生剛、杉山日菜子、花俣延博、西上原節子	
【傍 聴】	なし	
【配付資料】		
資料 1	武蔵野市一般廃棄物処理基本計画（令和5年度～令和14年度）（素案）	
資料 2	令和4年度版 事業概要 廃棄物の抑制・再利用と適正処理	
資料 3	第3回 第8期武蔵野市廃棄物に関する市民会議 追加資料	

1 開会

【事務局】定刻となったので会議を始める。

2 議題

（1）一般廃棄物処理基本計画（素案）について

① 計画策定期間について

【委員長】事務局に説明をお願いします。

【事務局】計画策定期間についての説明。

【委員長】事務局の説明に意見・質問はあるか。基本計画は今後、長期計画を踏まえて策定するという方向に変わるのか。

【事務局】長期計画では、主管課が議題を用意し、市民を交えて議論を行い、その内容に沿って策定を行う。基本計画の策定期間を長期計画と同時にするか、長期計画が完成した1年後に策定するかは、今後議論をし、検討したい。

【委員長】ほかに質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

② ごみ処理基本計画 基本方針 ④ ごみ処理基本計画 施策の体系・展開について

【委員長】事務局に説明をお願いします。

【事務局】ごみ処理基本計画 基本方針及び施策の体系・展開についての説明。

【委員長】事務局の説明に意見・質問はあるか。

【A委員】3つの基本方針について、18頁に追加してほしいことがある。昨今CO2削減の話題が重要になってきていると感じているが、プラスチックごみを燃料にするのはリサイクルとは異なる位置付けであると認識している。必ずしもプラスチックごみを燃やせばよいということではなく、なるべく燃やすものを減らすという意味合いをもう少し強く書き込んでほしい。

【事務局】指摘の内容については、基本計画に反映すべきことと認識している。35頁の「プラスチックの分別・収集・処理についての検討」が該当の箇所である。これま

で「燃やすごみ」として燃やしていたプラスチックを資源物として収集する対応が考えられる。資源物として収集する場合、越えなければならないハードルやメリット・デメリットがある。試算によると CO2 が年間約 2 % 減少するが、これに伴い年間数千万規模の委託料の増加も見込まれる。2 % の減少のために数千万規模で経費を増加させることが合理的か判断する必要がある。そのため基本計画にどこまで記載するかを検討する。

【委員長】次に施策の体系・展開について質問はあるか。

【A 委員】災害時家庭ごみが一定期間家に留まるという話があったが、その際、市民向けに公園等に一次集積所を作ることで対応できるとの回答があった。災害時に災害ごみの他に家庭ごみがあり、またトイレが使用不可になると現行では紙おむつと同様に保管するという事になっている。基本計画においては、震災や水害等があり地域防災計画と連動すべきだが、今一度災害時のごみ収集態勢について記載してほしい。

【委員長】今の指摘については発災直後の対応だと考えている。特に燃やすごみは最優先で復旧しなければならない。これらを行うにあたり課題もあると思うが、事務局はいかがか。

【事務局】災害ごみについては、素案の 39 頁にある通り仮置場の確保について検討する。家庭ごみについてはクリーンセンターの被災状況や収集の可否など検討し、災害廃棄物処理計画に記載する。また、災害で停電が発生したときでも、クリーンセンターはガスコジェネレーションによって稼働できるようになっている。問題は収集と認識している。被害の程度によるが家庭ごみが収集できれば、クリーンセンターで処理ができる想定だ。がれきは話が異なるため課題であると認識している。

【K 委員】我が社では、災害時の対応として複数の自治体と協定を結んでいる。しかし、全て多摩地域の自治体のため大規模災害が起きたとき現実として協定が機能するか不明だ。収集運搬では特に道路事情によって対応の可否が決まる。

【委員長】被害の程度によるが、自治体が経験を積むことが重要だ。何か起きたとき早急な対応ができるような態勢を整えておきたい。

【F 委員】私自身が環境に関する活動をするうえで、啓発の拡充が重要だと考えている。特に子どもへの教育は重要だ。しかし、学校に頼った教育は限界があり、エコレゾートで開催している親子体験は有意義だ。

【事務局】子どもへの啓発の重要性は認識している。親子体験については、この 2 年間でできなかった。今年度は夏休みごみ探検隊を開催したが大変好評だった。そのためこのような親子体験型の啓発は今後も研究したい。

【委員長】ほかに質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

③ ごみ処理基本計画 計画目標について

【委員長】事務局に説明をお願いします。

【事務局】ごみ処理基本計画 計画目標についての説明。

【委員長】事業系ごみが平成 30 年度から令和元年にかけて増加しているのはなぜか。

【事務局】原因は不明だが、ラグビーワールドカップやオリンピックへの機運が高まって

いた時期と重なり、商業活動が活発だったことが推測される。

【委員 長】ほかに質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全 委 員】異議なし。

⑤ 施設整備計画について

【委員 長】事務局に説明をお願いします。

【事 務 局】施設整備計画についての説明。

【委員 長】事務局の説明に意見・質問はあるか。

【B 委 員】クリーンセンターは災害時も稼働できると認識しているが間違いないか。以前千葉県に台風が上陸した際、処理施設が一時止まってしまう、ごみの搬入に苦労した経験がある。例えば、送電線等が断線しても、稼働が可能か。

【事 務 局】設計上は可能だ。クリーンセンター以外にも市庁舎、総合体育館、緑町コミュニティーセンター、むさしのエコ re ゴートの電気をクリーンセンターの発電でまかなっている。日中は購入した電力を使用し、夜間はクリーンセンターの発電でまかなった分を使用している。停電時の対応については今後の検討事項である。

【B 委 員】非常時でも安定的に稼働できるとありがたい。

【E 委 員】先ほど親子体験型の啓発の機会を作りたいとの話があった。学校だけでなく、継続的にごみについて学ぶ機会や、消費者が商品を購入するときにごみが少ない商品を選べるような感覚が身につく取組があるとよい。また、男性用トイレにもサニタリーボックスを設置する動きが盛んだが、ミカレットにそれらは設置されているのか。現在の市の考えを伺う。

【委員 長】①環境教育について②ミカレットについての質問について回答を求める。

【事 務 局】①の環境教育については、クリーンセンターで年 10 回啓発活動を行っている。一番大きなイベントはエコマルシェで、今年度はコロナの影響で規模を縮小した。多くの市民の方に参加いただけるよう周知、啓発している。また、クリーンセンターとむさしのエコ re ゴート共同で行うことを模索中だ。さらに、小学 4 年生の社会科見学で今年度はかなり多くの学校に見学いただいている。

②のミカレットの男性用サニタリーボックスの設置は、現在行っていない。本庁舎で試験的に設置されているので、動向を注視している。ただし、ミカレットは 24 時間 365 日だれでも使用可能なところが、本庁舎のトイレと異なる点だ。1 日 2～3 回清掃が入る他、市職員等が見回りをしているが、それでも破損や備品の紛失、不法投棄が起きている。これらを踏まえて、男性用サニタリーボックスの設置については検討中である。

【委員 長】ほかに質問はあるか。

【F 委 員】むさしのエコ re ゴートが新たな施設として開館したが、ワクチン接種会場に使用されている。啓発の観点から、現在の使用方針が正しいのか疑問である。他の公共施設で代替できないのか。環境部の方針を伺う。

【事 務 局】むさしのエコ re ゴートが本来の趣旨とは異なる形で使用されるのは心苦しい。しかし、どうしてもワクチン会場として検討を重ねた結果であるため理解いただきたい。今後の状況によって代替案を検討したり、環境啓発施設の役割を果たせるよう発信をしていきたい。

- 【委員 長】 オンライン参加の方はいかがか。特にないようなので次に進む。
- 【全 委 員】 異議なし。
- 【委員 長】 事務局から説明を願う。
- 【事 務 局】 今後のスケジュールについて案内する。素案に対するご意見から中間まとめ案を作成し、次回の市民会議で提示する。これは12月の市議会厚生委員会で行政報告を行う。その後、パブリックコメントによって広く意見をもらい必要な修正を行う。計画の素案については10月3日までに連絡をお願いする。12月の市議会では中間まとめ案と計画の概要版を提出する。
- 【委員 長】 事務局の説明に意見・質問はあるか。特にないようなので次に進む。
- 【全 委 員】 異議なし。

3 その他

- 【委員 長】 事務局から何かあるか。
- 【事 務 局】 追加資料についての説明。
- 【委員 長】 稲垣委員、茂木委員、補足的に意見はあるか。
- 【C 委 員】 特になし。
- 【B 委 員】 当社は食品リサイクルを2年前より飼料化からメタン化に変更した。食品リサイクルの量は増加したが、ほとんどが製造過程から出ており、食品そのものは値引き販売等を行ったうえで、売れ残ってしまった商品を食品リサイクルに回しているため一部である。スーパーとしての食品ロス削減は値引き販売をすることだ。値引きされているから買うというだけでなく、買わないとロスになってしまうという意識を持っていただけるとありがたい。
- 【委員 長】 オンライン参加の三原委員、長山委員、消費者の立場から何か意見はあるか。
- 【I 委 員】 コンビニエンスストアが24時間営業から時間短縮をするところが増えてきた。今まで当たり前だと思っていたことを見直すことが重要である。食品ロス削減の観点からいままで作ってきた量のあえて8分目くらいに変更するなど企業としての食品ロス削減の取組を打ち出すと企業側にもメリットがあると思う。
- 【委員 長】 小分け販売などはすでにスーパー等で行っていると認識しているがいかがか。
- 【B 委 員】 かつては何でも大容量で販売していたが、現在は小分け販売をするように変化してきた。
- 【委員 長】 独身世帯の増加が背景にある。
- 【H 委 員】 海外に留学して感じたことが、飲食店で食事をするとき持ち帰り用容器の有無を聞かれるため食べ残しがでない。持ち帰り用容器がごみになる問題もあるが、それは個人の容器を持参できるシステムを構築すればよい。このシステムを日本の飲食店で導入すれば、食品ロス削減に貢献できると考える。
- 【委員 長】 レストラン等でドギーバッグと呼ばれる持ち帰り用容器を自分で持参するという提案だが、そこまでいけたら究極の食品ロス対策になる。飲料も同様だ。定着すると本当のリデュースになる。
- 【E 委 員】 某スーパーで買い物をしたとき私の買い物かごには値引きされた商品がいくらか入っていた。主婦の立場では恥ずかしさもあったが、レジの方から「食品ロス削減にご協力ありがとうございます」と言われた。私は心が軽くなって前向きに捉えることができた。値引きシールが貼られたものを購入することは食品

ロスにつながるということをアピールすると良いと考えた。安く購入できると考えている客が多いと思うが、それが食品ロス削減につながっていることが分かるとより取組が広がると考える。

【事務局】追加資料で頂いた意見を計画に落とし込みたいと考えている。食品ロス削減推進計画 46～47 頁にある目標達成に向けた各主体の行動指針において、今回の調査を行動指針の後に行動計画として盛り込むパターンと、毎年更新する実施計画の各主体の行動指針に盛り込むパターンで検討している。中間まとめで示したい。

【委員長】事務局から何かあるか。

【事務局】議事要録については作成の上、委員の皆様にご確認を頂くことをお願いする。
第4回は11月4日（金）に開催予定である。

【委員長】何か全体を通じて意見・質問はあるか。

【全委員】異議なし。

4 閉会

【委員長】以上で本日のごみ市民会議を終了する。